

2023 年度版 交通事故の実態

2022 年度の事故発生状況
(2022. 04 ~ 2023. 03)



SHINKOKYO
神奈川県自動車交通共済協同組合

2023 年度版「交通事故の実態」の発刊にあたって

当組合は、交通事故の防止を最重要課題として取り組んでいます。

2021 年度は、交通事故防止重点項目を掲げ、交通事故防止強化月をはじめとする交通事故防止対策を展開し、交通事故の防止に努めてまいりましたが、特に、対物共済では全ての交通事故防止強化月で前年同期を上回る事故件数となり、また、年間を通して建造物損壊事故の多発等により事業利益が欠損となりました。

2022 年度は収益の改善をはかるため、前年度の交通事故の発生実態を踏まえ交通事故防止重点項目を掲げ、コメンタリー運転の実践を推進し、組合員の理解と協力のもと、交通事故の防止に向けた取り組みを行いました。対物共済の事業利益は前年度を上回る欠損が生じ、次年度に課題を残す結果となりました。

ここに、2023 年度版「交通事故の実態」として、2022 年度の交通事故の発生状況を統計資料として公表いたします。

組合員の皆様におかれましては、一件でも交通事故を減少させるため、事業所の交通事故防止活動にご活用いただければ幸いに存じます。

2022 年度交通事故防止重点項目

- 交差点事故の根絶
- 追突事故の根絶
- 構内事故の根絶

データの分類は、各年度ごとに「全事故」や「共済種目別」に行っています。

- 「全事故」とは、各期間内に受け付けた事故件数
- 「共済種目別」とは、共済契約種目別に事故処理をした件数

「支払共済金」には、確定前の支払備金も含んでいます。

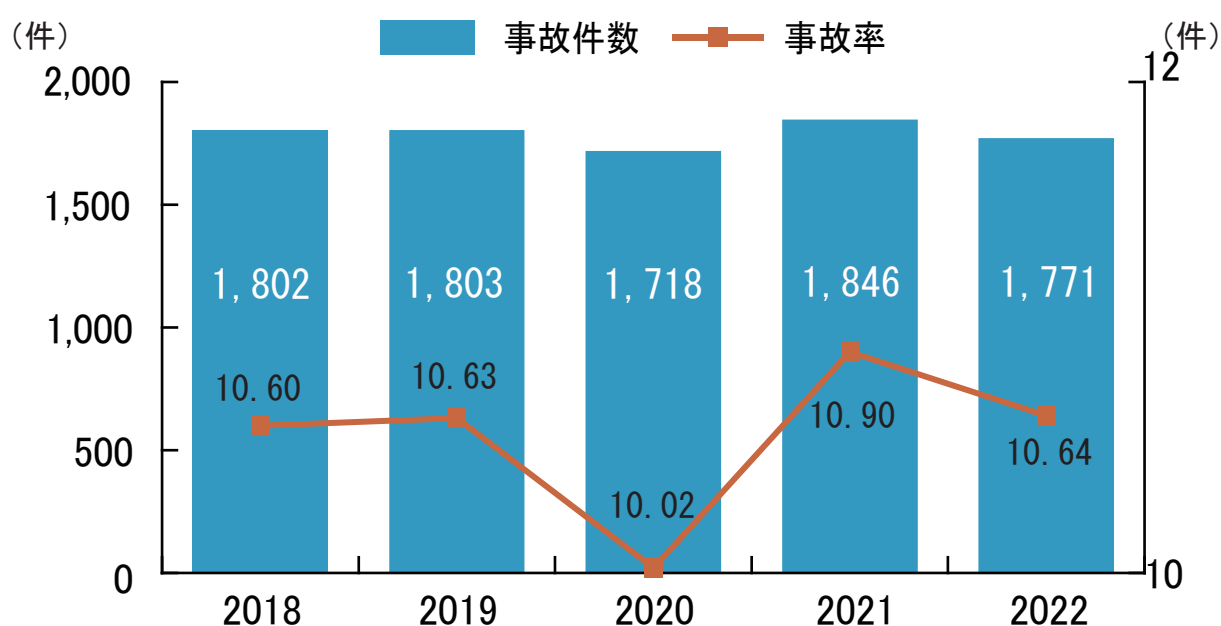
目 次

1. 交通事故発生状況（全事故）.....1 頁	5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生状況.....16 頁
(1) 事故発生件数と事故率（2018～2022年度）	(1) 対人共済
(2) 月別事故発生件数（2022年度）	① 高額賠償事案（1,000万円以上）の事故発生状況
(3) 類型別事故発生件数（2022年度）	② 道路形状別の事故発生状況
(4) 道路形状別事故発生件数（2022年度）	③ 原因別の事故発生状況
(5) 発生時間帯別事故発生件数（2022年度）	④ 類型別の事故発生状況
(6) 運転者年齢層別事故発生件数（2022年度）	(2) 対物共済
(7) 原因別事故発生件数（2022年度）	① 高額賠償事案（200万円以上）の事故発生状況
2. 共済種目別事故発生状況.....5 頁	② 道路形状別の事故発生状況
(1) 共済種目別事故発生件数・事故率	③ 原因別の事故発生状況
(2) 対人共済被害者数（死亡・後遺障害・傷害）	④ 類型別の事故発生状況
(3) 対物共済類型別事故発生件数	6. 過去5年間における運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）.....20 頁
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況(2022年度).....6 頁	(1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況
(1) 交差点事故の実態	(2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況
① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）	(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況
② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）	7. 2022年度交通事故防止強化月の事故発生状況.....23 頁
③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金	(1) 月別事故発生件数
(2) 追突事故の実態	① 全事故
① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）	② 対人共済
② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金	③ 対物共済
(3) 構内事故の実態（対物共済）	8. 2022年度交通事故防止強化月の結果について.....24 頁
① 構内事故の類型別事故状況	(1) 重点項目別事故発生件数
② 構内事故の原因別事故状況	(2) 交通事故防止強化月ポスターの作成
③ 構内事故の支払共済金	9. 交協連傘下15組合の2022年度事故発生状況.....25 頁
(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）	(1) 事故発生状況（対人・対物事故）
① 交通弱者との道路形状別事故状況	(2) 原因別事故発生状況（対人事故）
② 交通弱者との原因別事故状況	(3) 類型別事故発生状況（対人事故）
③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金	(4) 運転者年齢層別事故発生状況（対人事故）
④ 交通弱者年齢層と事故発生場所	
⑤ 交通弱者被害者類型・態様別	
4. 過去5年間における発生事故に係る支払共済金.....15 頁	

1. 交通事故発生状況（全事故）

（1）事故発生件数と事故率（2018～2022年度）

2022年度は、全事故件数、事故率ともに前年度より減少となりました。共済種目別事故発生件数では、対人共済、搭傷共済は前年度より増加し、対物共済、車両共済は前年度より減少となりました。



※事故率は、100両当りの1年間の事故発生割合（件数）を示します。

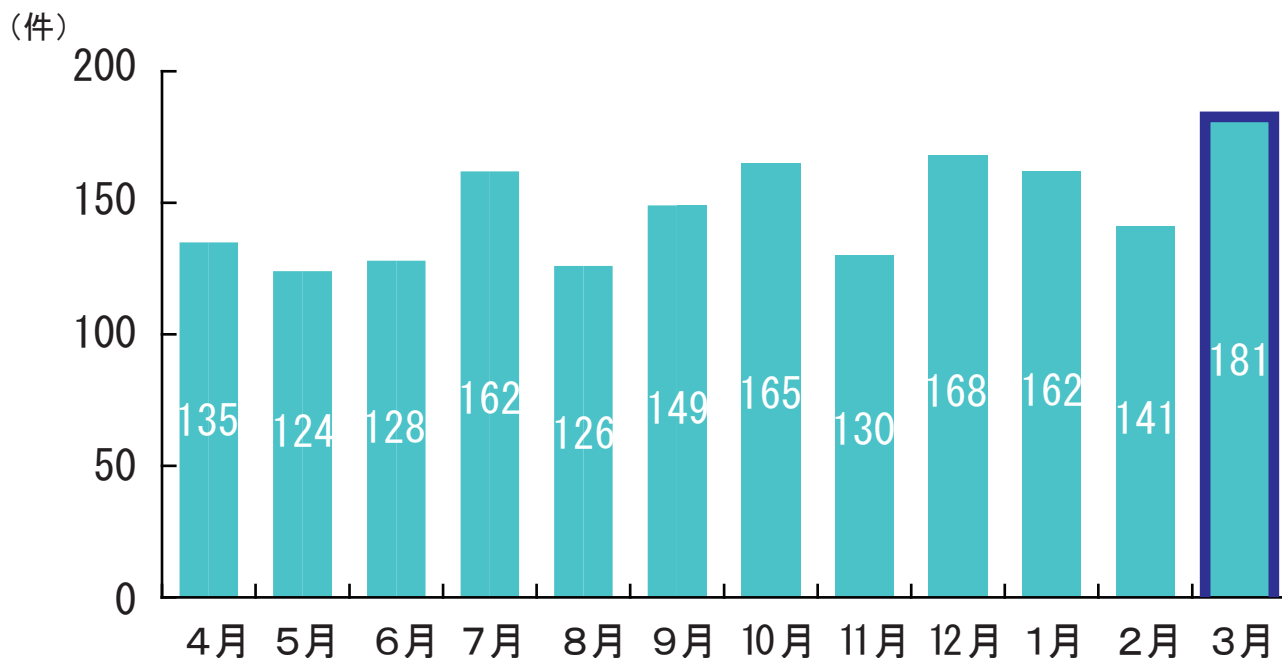
共済種目別事故発生件数

共済種目別	2018	2019	2020	2021	2022
対 人	412	381	316	332	343
搭 傷	7	5	6	0	1
対 物	1,602	1,610	1,559	1,690	1,640
車 両	112	112	102	113	111
合 計	2,133	2,108	1,983	2,135	2,095
全事故件数	1,802	1,803	1,718	1,846	1,771

※全事故の発生件数は、1件の事故につき複数共済種目での受付を含んでいます。また、各年度の決算時の件数を示します。

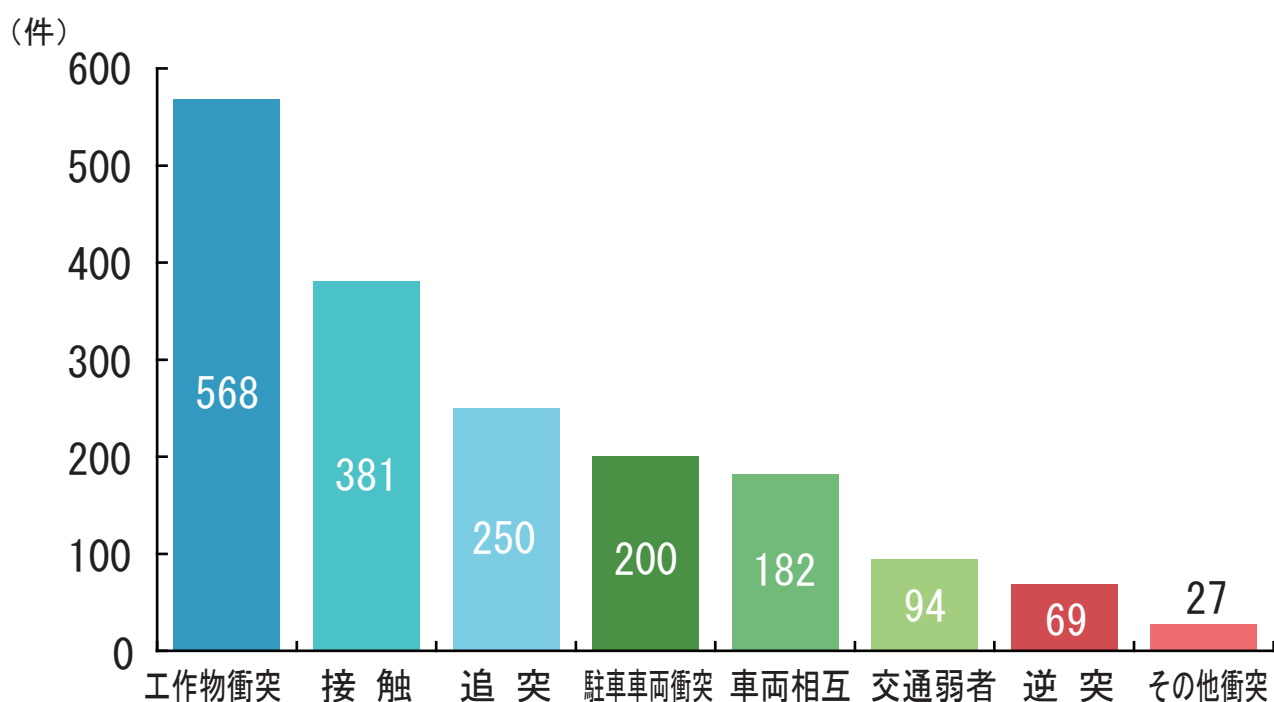
(2) 月別事故発生件数 (2022 年度)

月別では、3月が最も多く181件で、前年度比5.8% (10件) 増加しています。



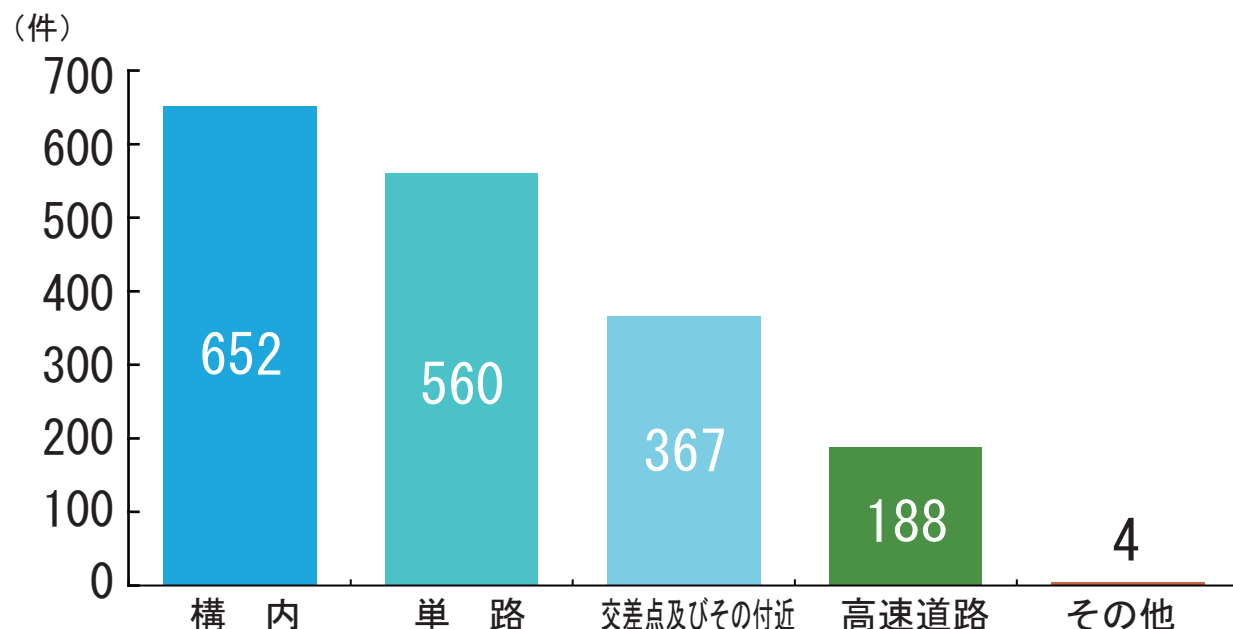
(3) 類型別事故発生件数 (2022 年度)

類型別では、工作物への衝突が最も多く、全事故件数1,771件のうち 32.1% (568件) となっています。交通事故防止重点項目で掲げている追突では、前年度比10.6% (24件) の増加となりました。



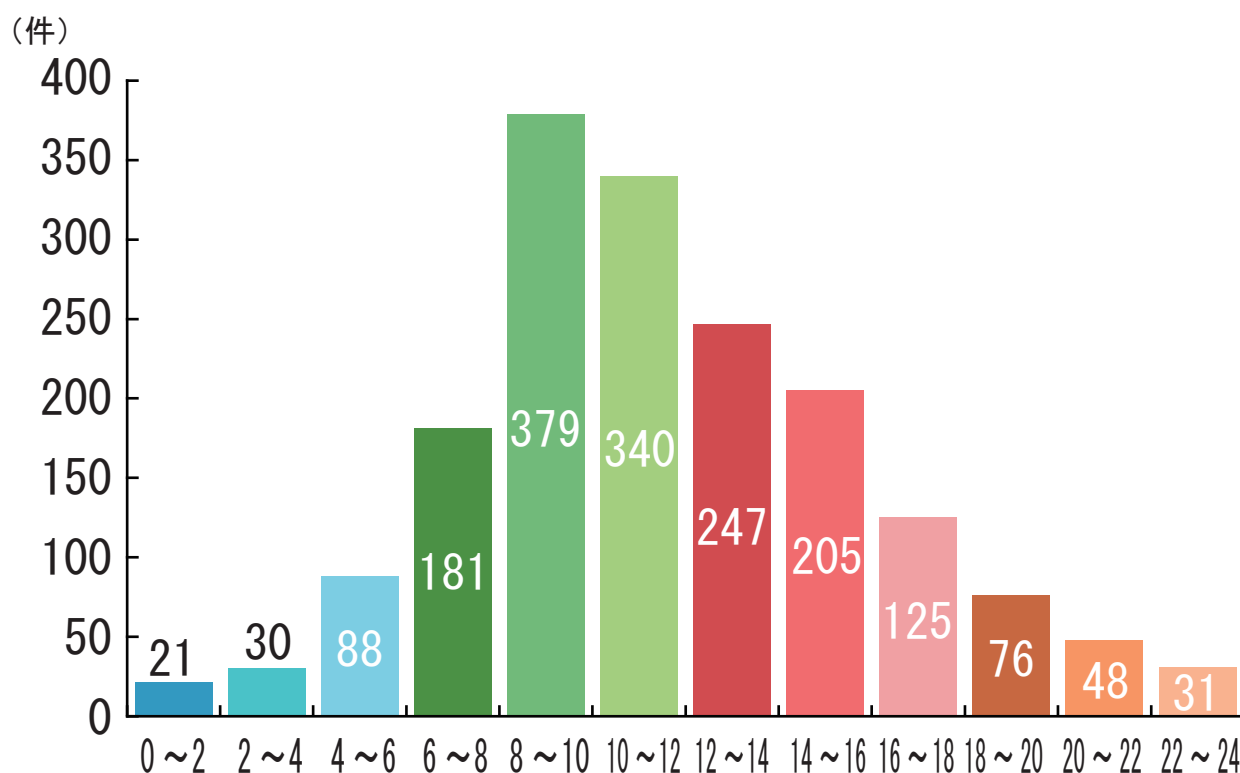
(4) 道路形状別事故発生件数 (2022 年度)

道路形状別では、交通事故防止重点項目に掲げている構内で前年度比6.1%(42件)、交差点及びその付近で11.6%(48件)減少しました。また、高速道路では、32.4%(46件)増加しました。



(5) 発生時間帯別事故発生件数 (2022 年度)

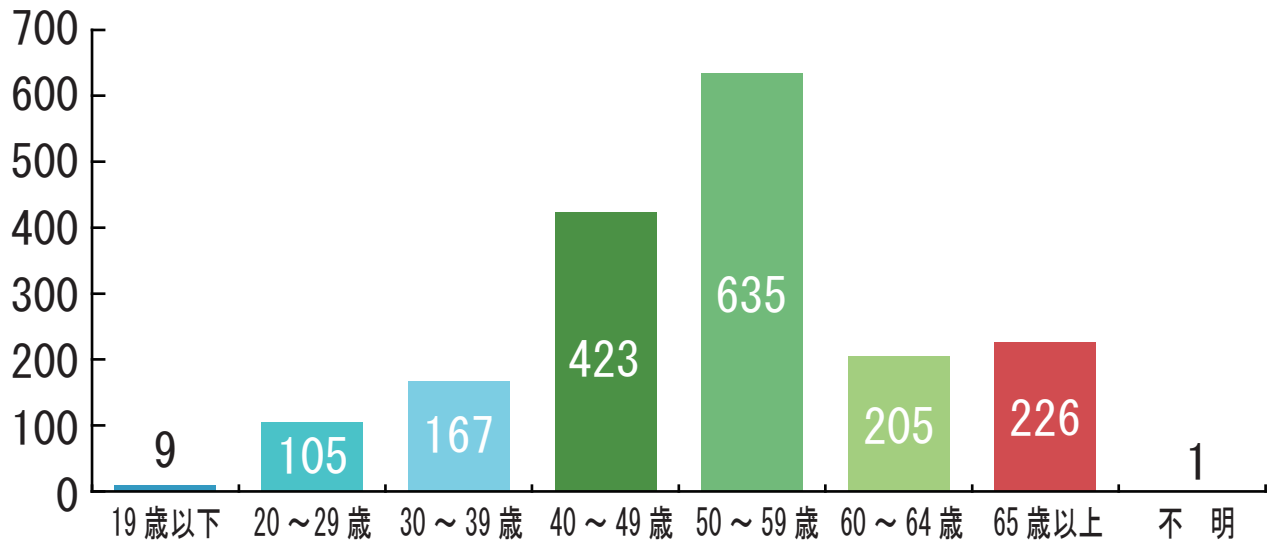
発生時間帯別では、8時から12時までの時間帯が多く、全体の40.6%を占めており、特に8時から10時の時間帯に最も多く発生しています。



(6) 運転者年齢層別事故発生件数 (2022 年度)

運転者年齢層別では、40～49 歳が前年度比 2.7% (11 件) 増加しました。また、40 歳代、50 歳代を合わせると、全体の 59.7%を占めています。

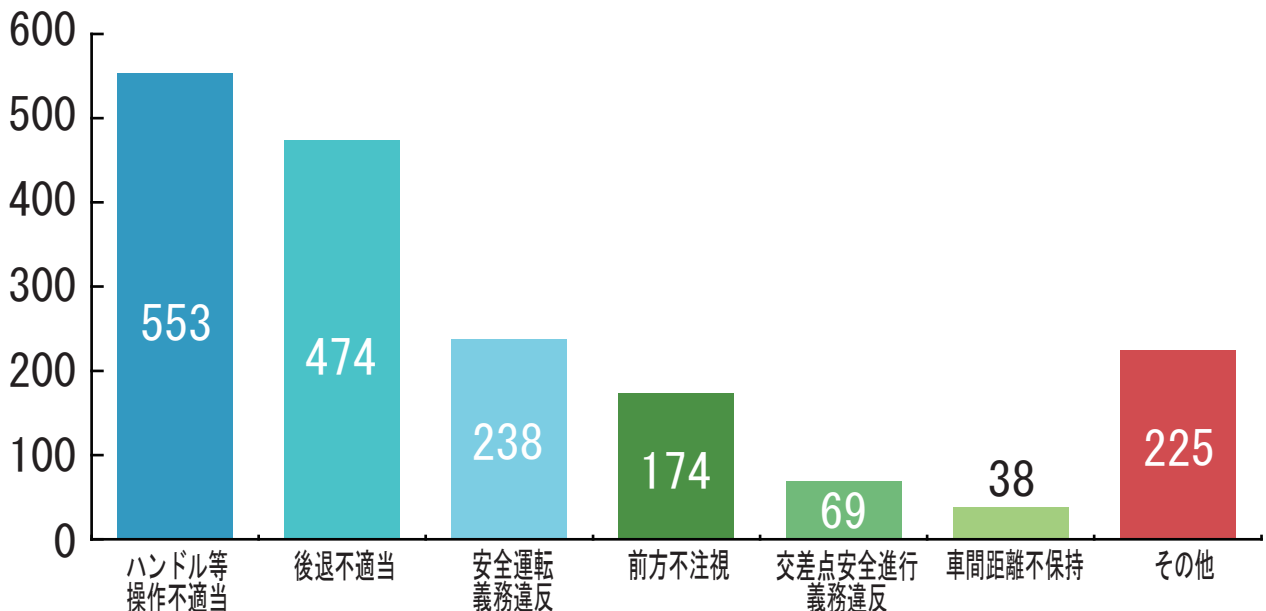
(件)



(7) 原因別事故発生件数 (2022 年度)

原因別では、ハンドル等操作不適當が最も多く、次いで後退不適當の順に多く発生しています。

(件)



道路交通法では

- ◇安全運転義務違反とは、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。
- ◇交差点安全進行義務違反とは、交差点を通過する際、交差点の通行車両及び横断歩行者に注意し、安全な速度と方法で進行しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。

2. 共済種目別事故発生状況

(1) 共済種目別事故発生件数・事故率

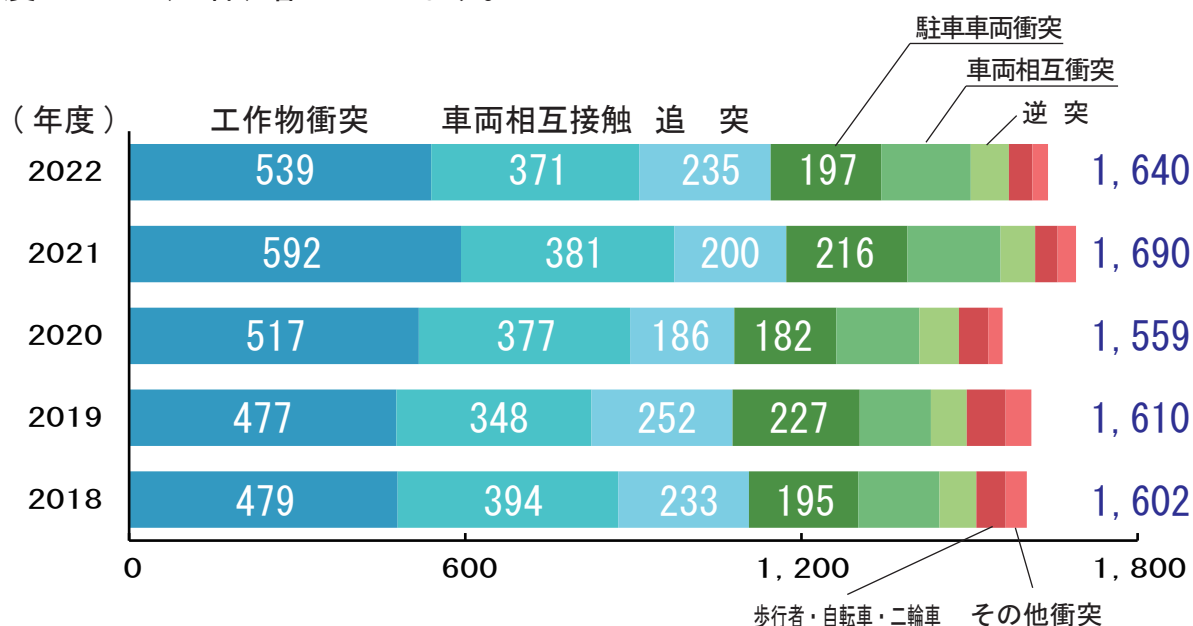
共済種目別		年 度	2018	2019	2020	2021	2022
対人	発生件数(件)		412	381	316	332	343
	死者数(人)		7	5	1	1	1
	傷者数(人)		527	473	384	440	442
	事故率(件)		2.42	2.25	1.84	1.96	2.06
搭傷	発生件数(件)		7	5	6	0	1
	事故率(件)		0.11	0.07	0.09	0	0.02
対物	発生件数(件)		1,602	1,610	1,559	1,690	1,640
	事故率(件)		11.96	11.86	11.18	12.10	11.89
車両	発生件数(件)		112	112	102	113	111
	事故率(件)		5.93	5.60	4.66	5.03	4.82

(2) 対人共済被害者数(死亡・後遺障害・傷害)

区 分	年 度	2018	2019	2020	2021	2022
① 死 亡 (人)		7	5	1	1	1
② 後遺障害 (人)		32	28	29	20	39
③ 傷 害 (人)		495	445	355	420	403
④ 合 計 (人)		534	478	385	441	443
⑤ ①+② (人)		39	33	30	21	40
⑥ ⑤の④に対する割合 (%)		7.3	6.9	7.8	4.8	9.0

(3) 対物共済類型別事故発生件数

対物事故による工作物衝突は、前年度比9.0% (53件) 減少したものの、追突では、前年度比17.5%(35件) 増加しています。

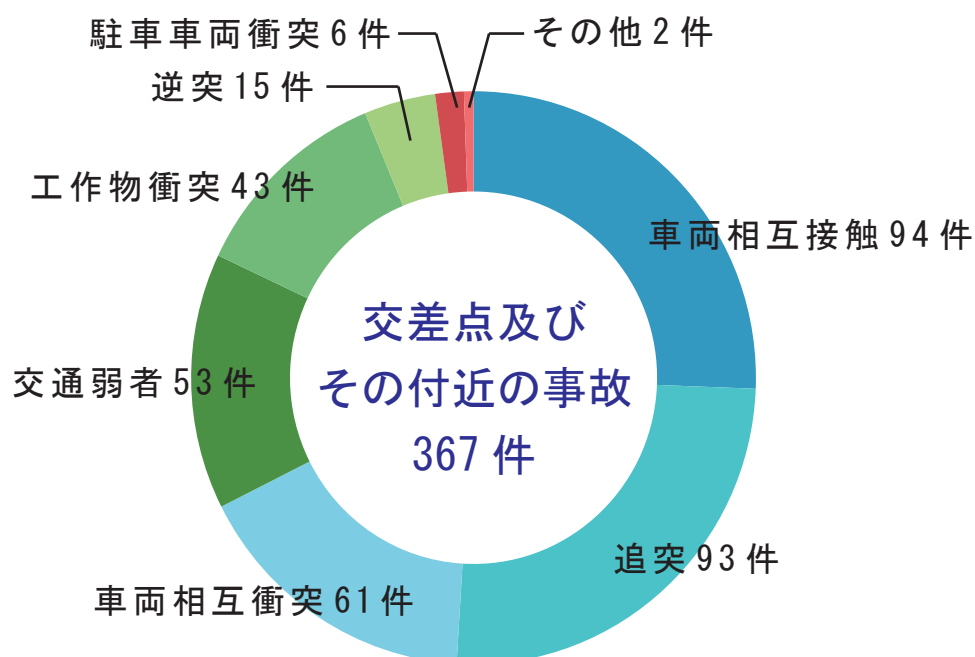


3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況（2022年度）

(1) 交差点事故の実態

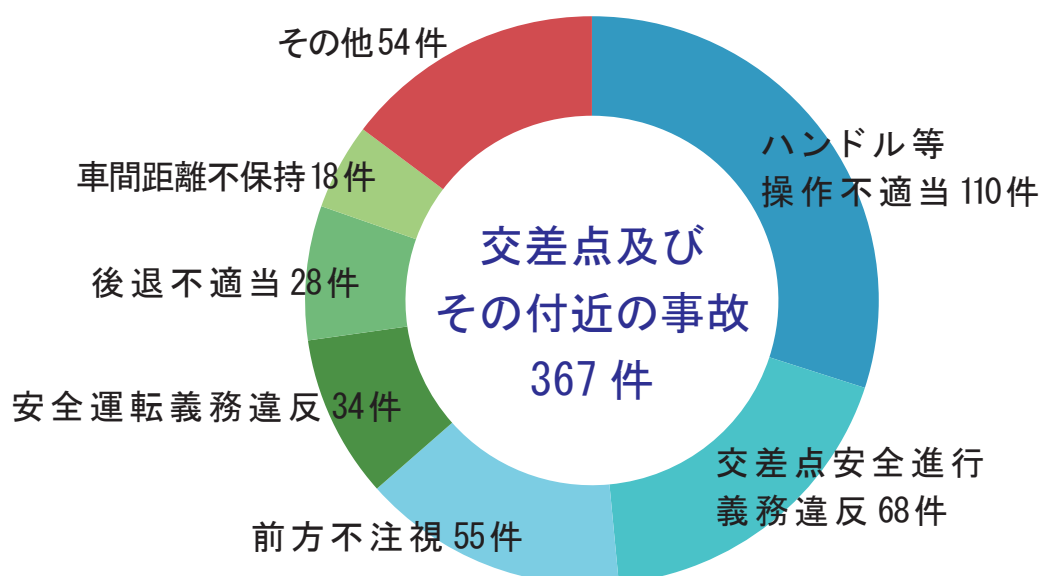
① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）

交差点事故の類型別では、工作物衝突が前年度比47.6%(39件)減少し、追突が前年度比31.0%(22件)増加しました。



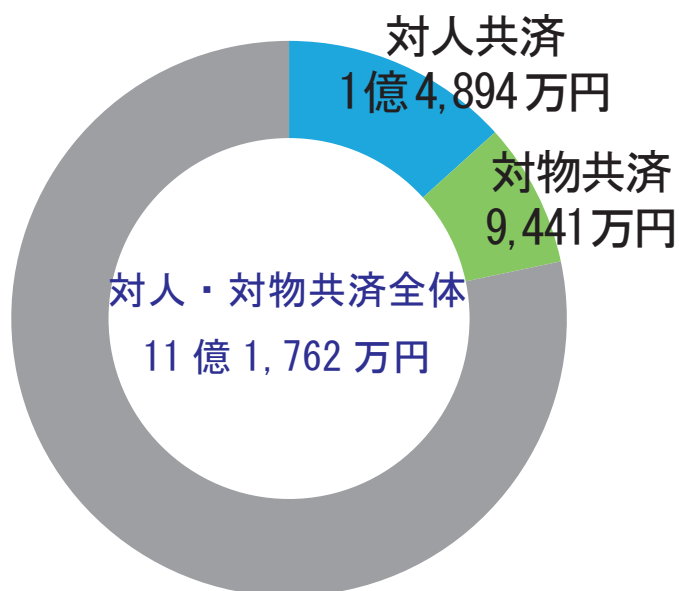
② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）

交差点事故の原因別では、ハンドル等操作不適當および交差点安全進行義務違反が主な原因となっています。



③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金

2022年度の交差点及びその付近の事故による支払共済金は、対人共済1億4,894万円、対物共済は9,441万円、総額で2億4,335万円となり、支払共済金全体の21.8%にあたります。



交差点事故防止のワンポイントアドバイス

交差点での事故原因は、ハンドル等操作不適當、交差点安全進行義務違反が主な原因となっています。車・人が混在する交差点では、コメンタリー運転を実践して確実な安全確認を行うことが大切です。

1. 交差点の通行方法

交差点は車と歩行者、自転車等が混在する場所です。交差点に入るときや交差点内を通行するときは、他の車の動きや横断しようとしている歩行者、自転車等はいないか気を配りながら周囲の安全確認をしてから慎重に通行してください。

2. かもしれない運転の実践

信号の変わり目に進入など、予想外の行動を相手方がすることがあります。来ないだろうの「だろう運転」から、来るかもしれないの「かもしれない運転」を日頃から実践してください。

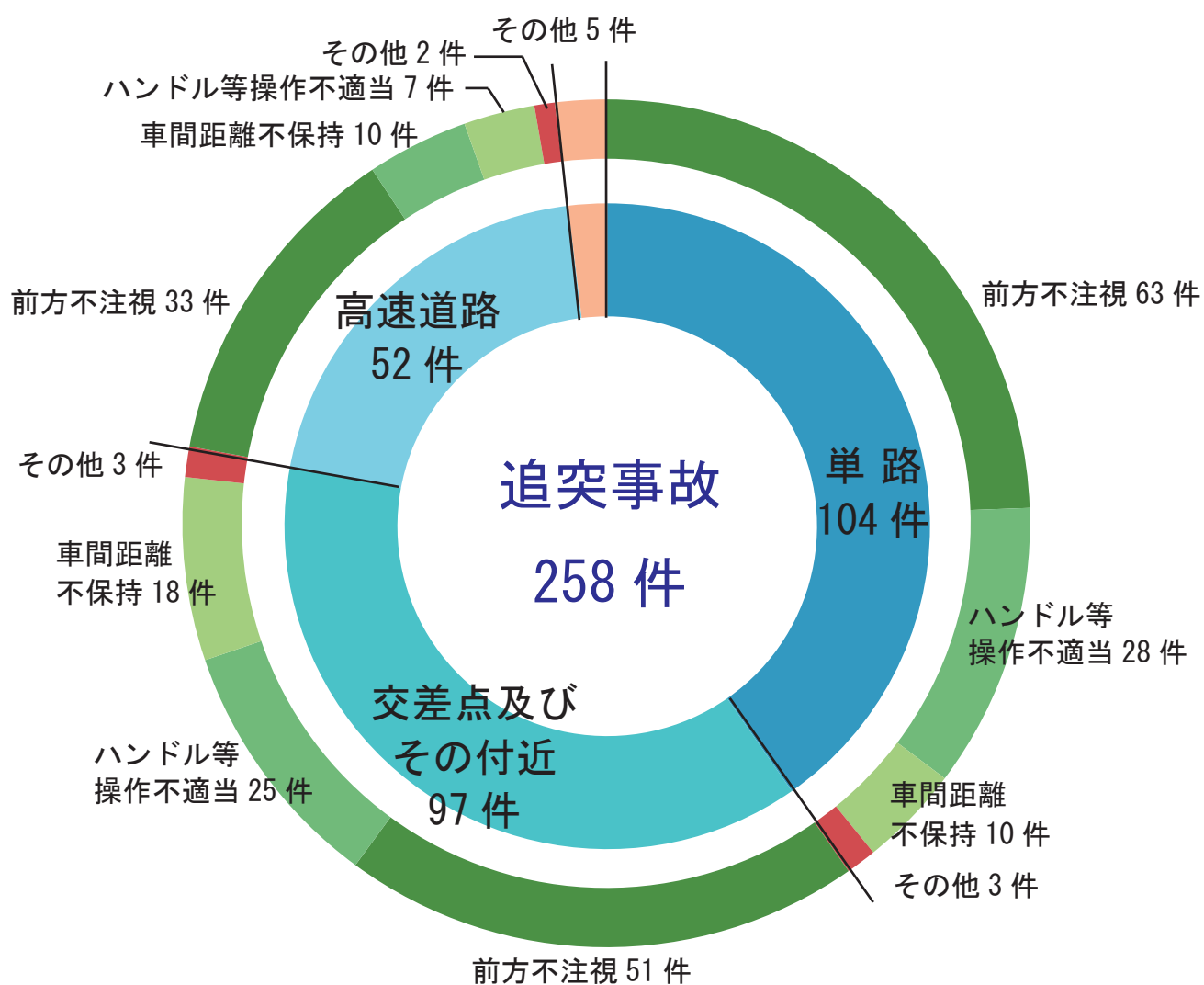
3. コメンタリー運転の実践

渋滞の切れ目を右折するときは、対向車の陰から走行して来る二輪車に注意し、「対向車 停止」「二輪車 注意」などと声に出して、二輪車の有無をしっかりと確認しましょう。

(2) 追突事故の実態

① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）

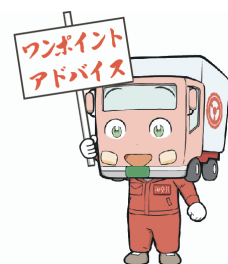
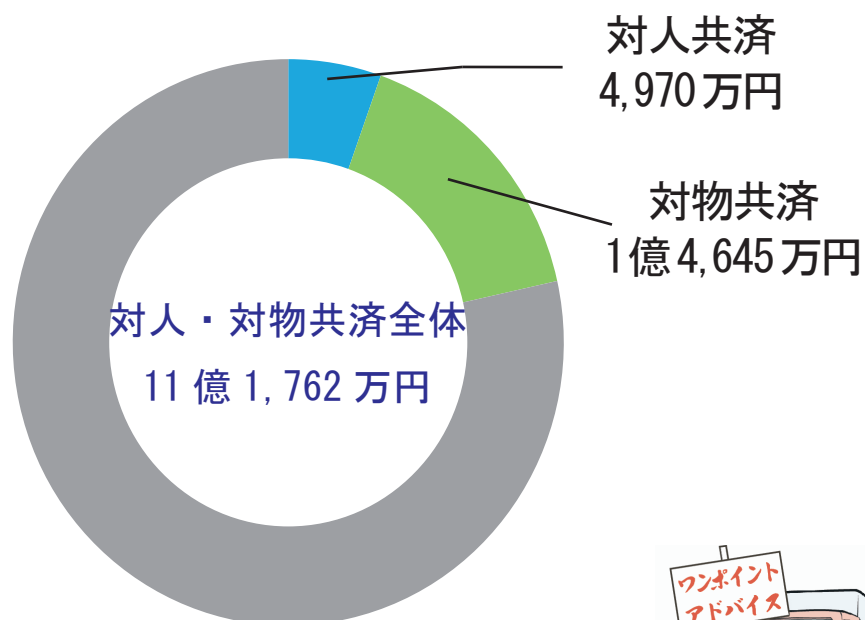
追突事故は、前方不注意が主な原因となっており、すべての道路形状で半数以上を占めています。



※追突事故 258 件には、交通弱者である二輪車への追突 8 件を含みます。

② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金

2022年度の追突事故による支払共済金は、総額で1億9,615万円となり、支払共済金全体の17.6%にあたります。



追突事故防止のワンポイントアドバイス

追突事故防止のため、交差点での信号機の表示遵守や渋滞中における安全確認の励行などへの注意が必要です。

1. 信号の変わり目に注意

「前車は止まるかもしれない」と常に考え、いつでも停止することができる速度で運転しましょう。

2. 脇見につながる行為に注意

渋滞中など速度が出ていない時は、気の緩みから前方不注視になりがちです。運転中は、前車をはじめ周囲の動向に十分注意してください。

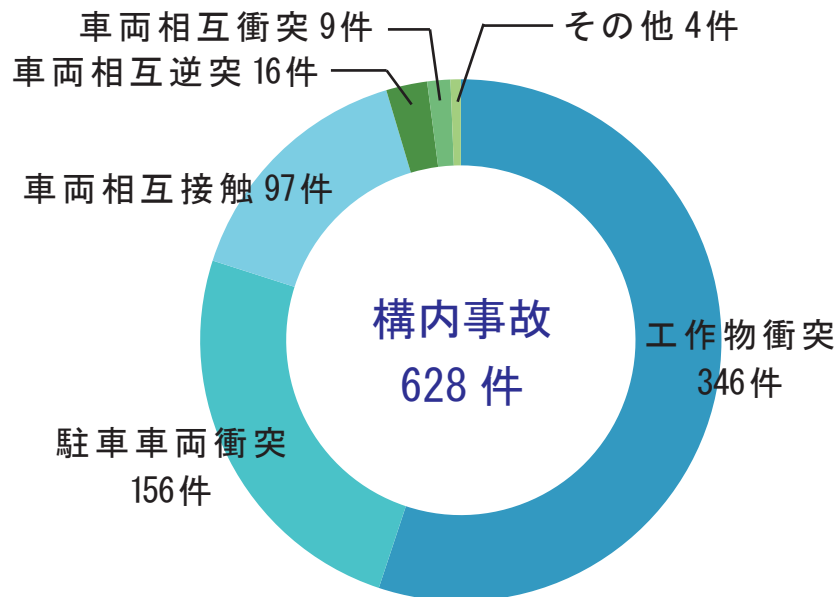
3. コメンタリー運転の実践

「車間距離 注意」「前車 停止」などと声に出して、自分の目と耳と声での安全確認を心掛けましょう。

(3) 構内事故の実態（対物共済）

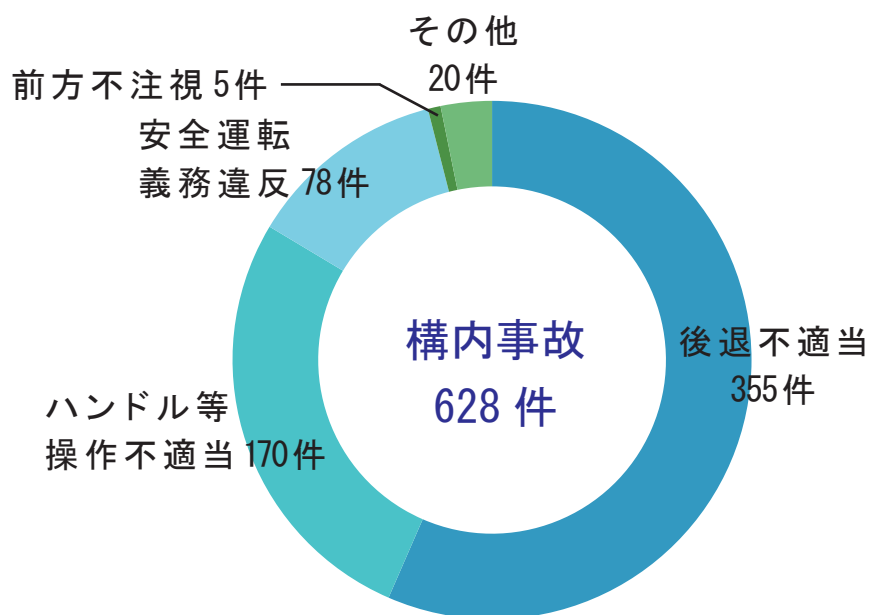
① 構内事故の類型別事故状況

構内事故の類型別では、門柱、シャッター等による高額賠償事故を含む工作物への衝突事故が346件と最も多く、構内事故全体の55.1%を占めています。



② 構内事故の原因別事故状況

構内事故の事故原因別では、後方に対する安全確認が不十分な後退不適當が355件と56.5%を占めています。

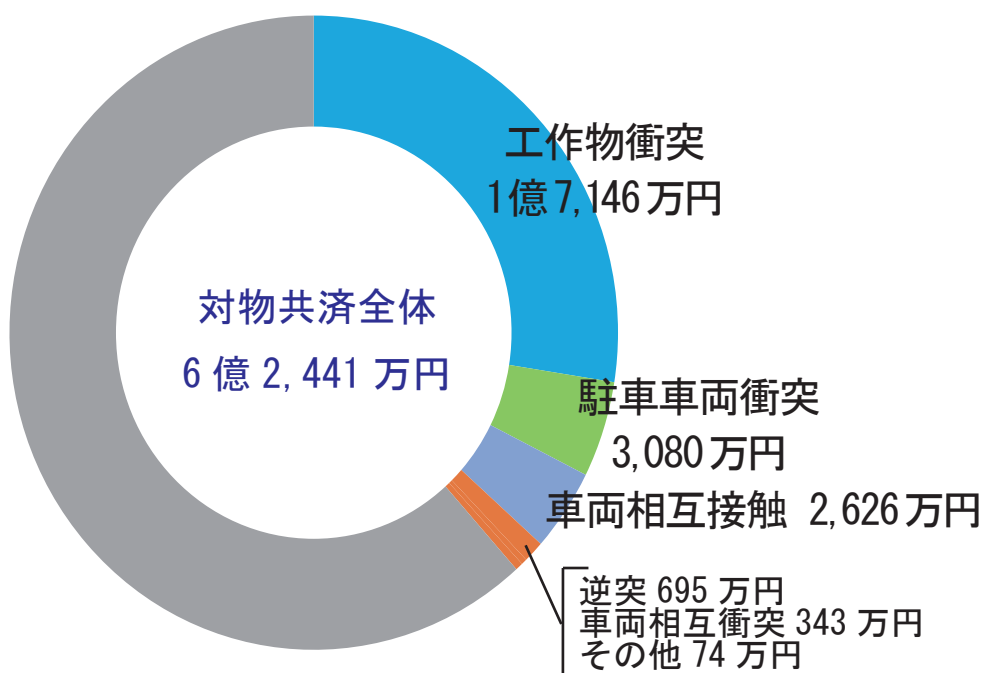


※安全運転義務違反には、構内を移動する際にウイングや観音扉の閉め忘れにより、構内施設や他車両に衝突した事故等が含まれます。

③ 構内事故の支払共済金

2022年度の構内事故による支払共済金は、総額で2億3,964万円となり、そのうち工作物への衝突事故が1億7,146万円と構内事故による支払共済金の71.5%を占めています。

また、構内事故による支払共済金総額は、対物共済全体の38.4%にあたります。



構内事故防止のワンポイントアドバイス

構内事故の要因として「いつもの構内だから・・・と警戒心が低下したこと」が挙げられます。慣れた構内ほど警戒心を高めることが大切です。

1. 慣れた構内でも油断しない

慣れた構内でも油断せず、障害物は必ずあるという気持ちで、構内施設や他車両を確認し、油断の心理を警戒しましょう。

2. 後退時の安全確認の徹底

ミラーやバックカメラには死角があります。後退時は下車して自分の目で周囲の安全確認をしてください。

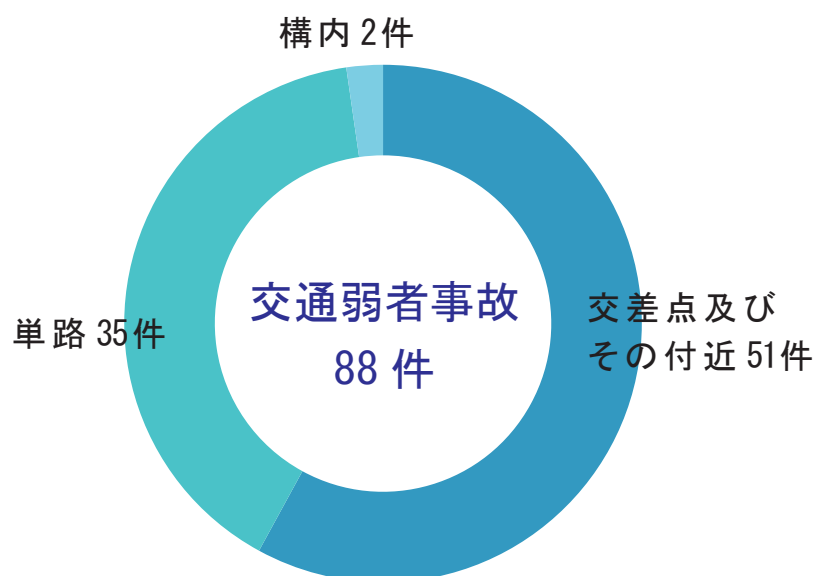
3. コメンタリー運転の実践

必ず下車確認「後方 よし」「上方 よし」などと声に出して安全確認をし、慣れや油断からの事故を防止しましょう。

(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）

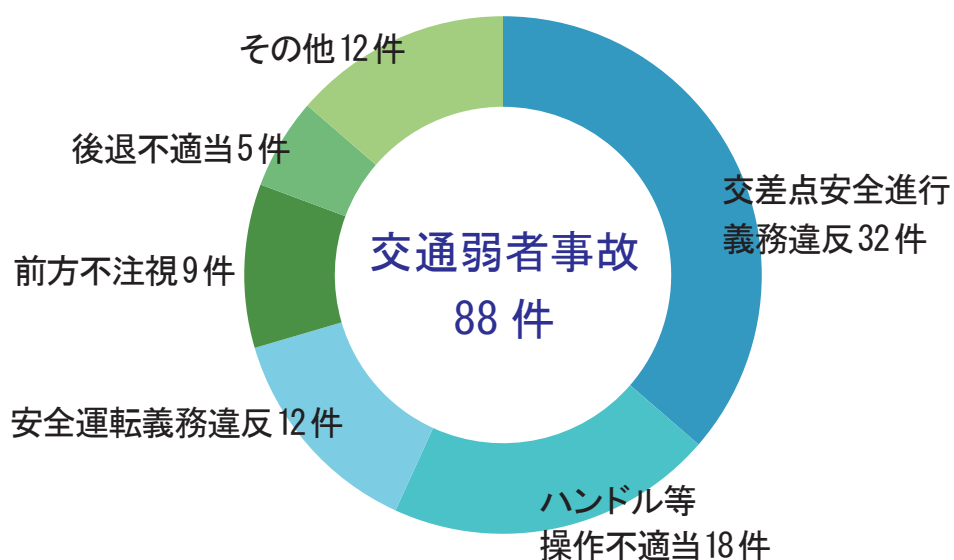
① 交通弱者との道路形状別事故状況

「交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）」（以下、「交通弱者」といいます。）を被害者とする事故88件のうち、58.0%（51件）が交差点及びその付近で発生しています。



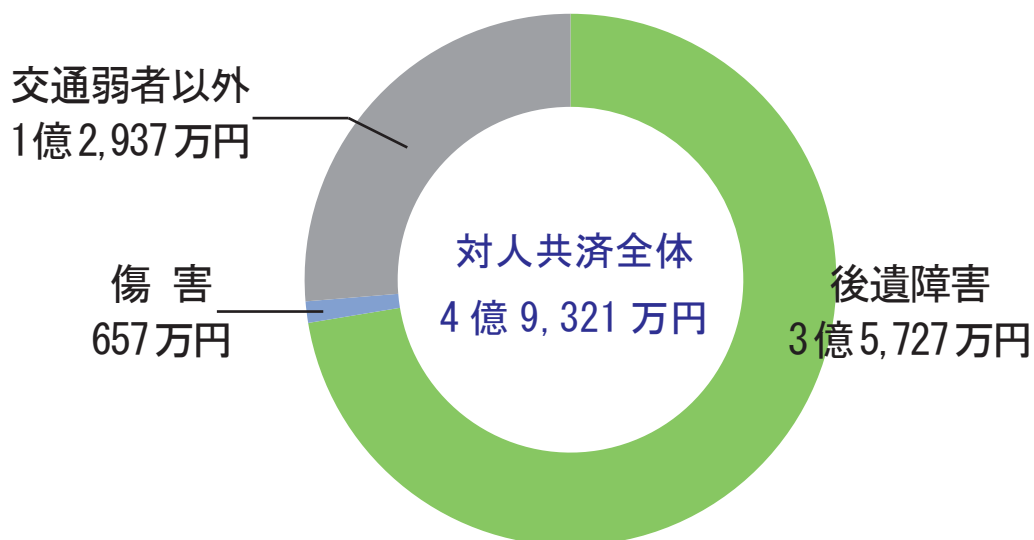
② 交通弱者との原因別事故状況

交通弱者との事故原因別では、交差点を通過する際の安全確認を怠ったことによる交差点安全進行義務違反が32件と多く、ハンドル等操作不適當18件を合わせると全体の56.8%（50件）を占めています。



③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金

2022年度の交通弱者に対する支払共済金は、後遺障害に対して3億5,727万円、傷害に対して657万円で総額3億6,384万円となり、対人共済全体の支払額に占める割合は73.8%となっています。



④ 交通弱者年齢層と事故発生場所

交通弱者事故件数は88件で、被害者数は90人となっています。

発生場所では交差点及びその付近が57.8%を占め、その中で被害者年齢層別では65歳以上が最も多くなっています。

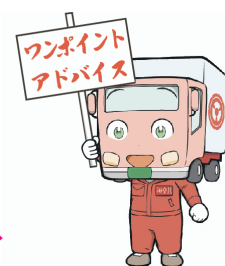
年 齢	場 所					合 計
	交差点及びその付近	単 路	構 内	高速道路		
6歳以下	1					1
7～12歳	1					1
13～15歳	2	1				3
16～19歳	6	2				8
20～29歳	5	3				8
30～39歳	5	5				10
40～49歳	11	12				23
50～59歳	6	4	1			11
60～64歳	3	2				5
65歳以上	12	7	1			20
合 計	52	36	2			90

⑤ 交通弱者被害者類型・態様別

被害者類型・態様別では、自転車が41件と最も多く発生し、全体に占める割合は45.6%となっています。

(人)

区 分 被害者態様	交 通 弱 者			合 計
	歩行者	自転車	二輪車	
死 亡				
後遺障害	7	6	11	24
傷 害	13	35	18	66
合 計	20	41	29	90



交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス

交通弱者との事故は、「交差点安全進行義務違反」・「ハンドル等操作不適當」・「安全運転義務違反」が主な原因で発生しています。

1. 周囲の安全確認の徹底

交通弱者との事故は、交差点及びその付近で、脇見運転などによる発見の遅れ、見落としにより発生しています。また、後遺障害など重大事故につながりやすいため、交差点の右左折時は徐行し、周囲の安全確認を十分に行い走行してください。

2. 生活道路の漫然運転による横断歩行者に注意

人通りの少ない生活道路では、横断歩道の無い場所での高齢者の横断や駐車車両の陰からの子どもの飛び出し等、漫然と運転していると発見が遅れて、歩行者事故が発生しますので、注意を徹底しましょう。

3. コメンタリー運転の実践

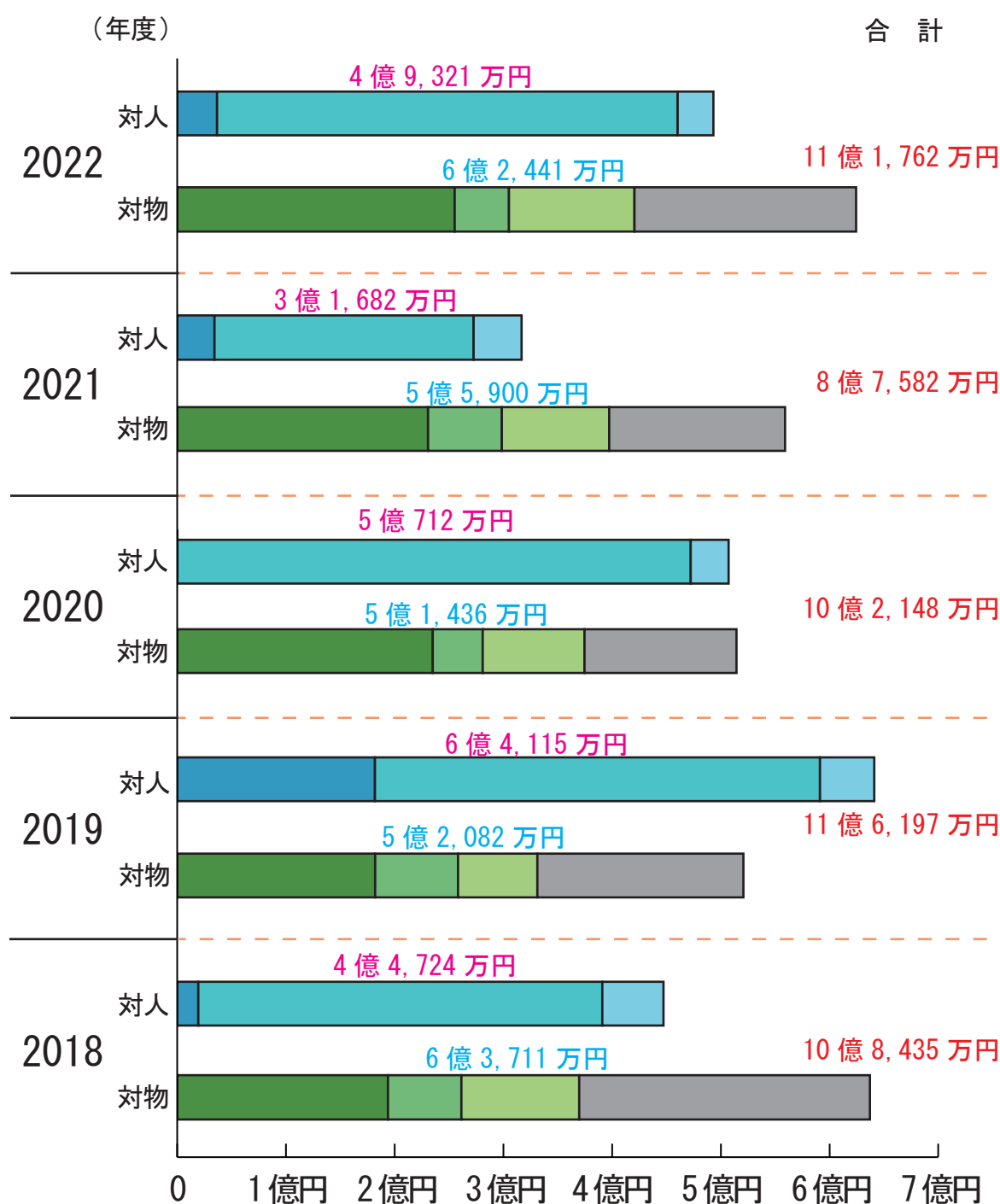
「歩行者 注意」「自転車 注意」などと声に出して、危険と思われる対象を正確に把握し、認知ミスを防ぎましょう。

4. 過去5年間にける発生事故に係る支払共済金

2022年度は、対人共済では後遺障害、対物共済では工作物衝突による事故が高額賠償事案となり、収益に影響を及ぼし、対人・対物共済の支払共済金は11億1,762万円で、前年度と比較して2億4,180万円増加しています。

対人共済： ■ 死 亡 ■ 後遺障害 ■ 傷 害

対物共済： ■ 工作物衝突 ■ 駐車車両衝突 ■ 車両相互接触 ■ その他

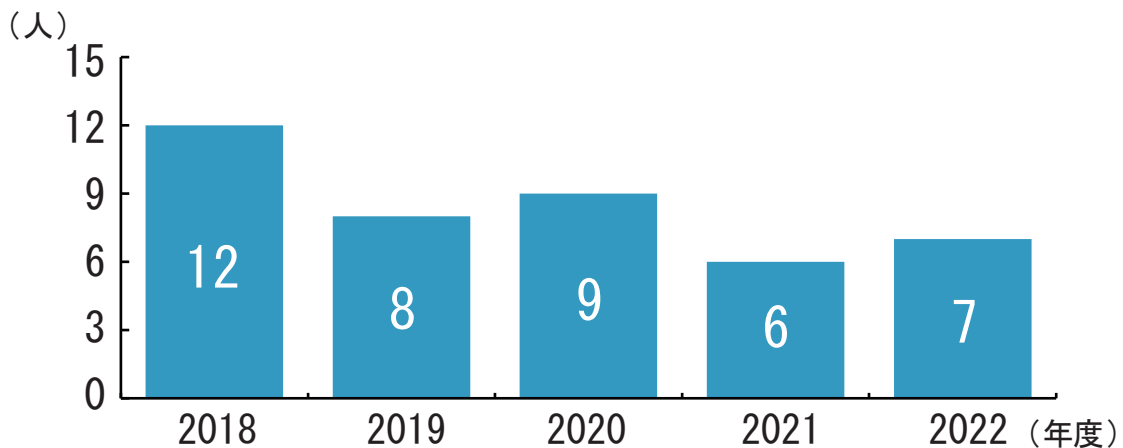


5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生状況

(1) 対人共済

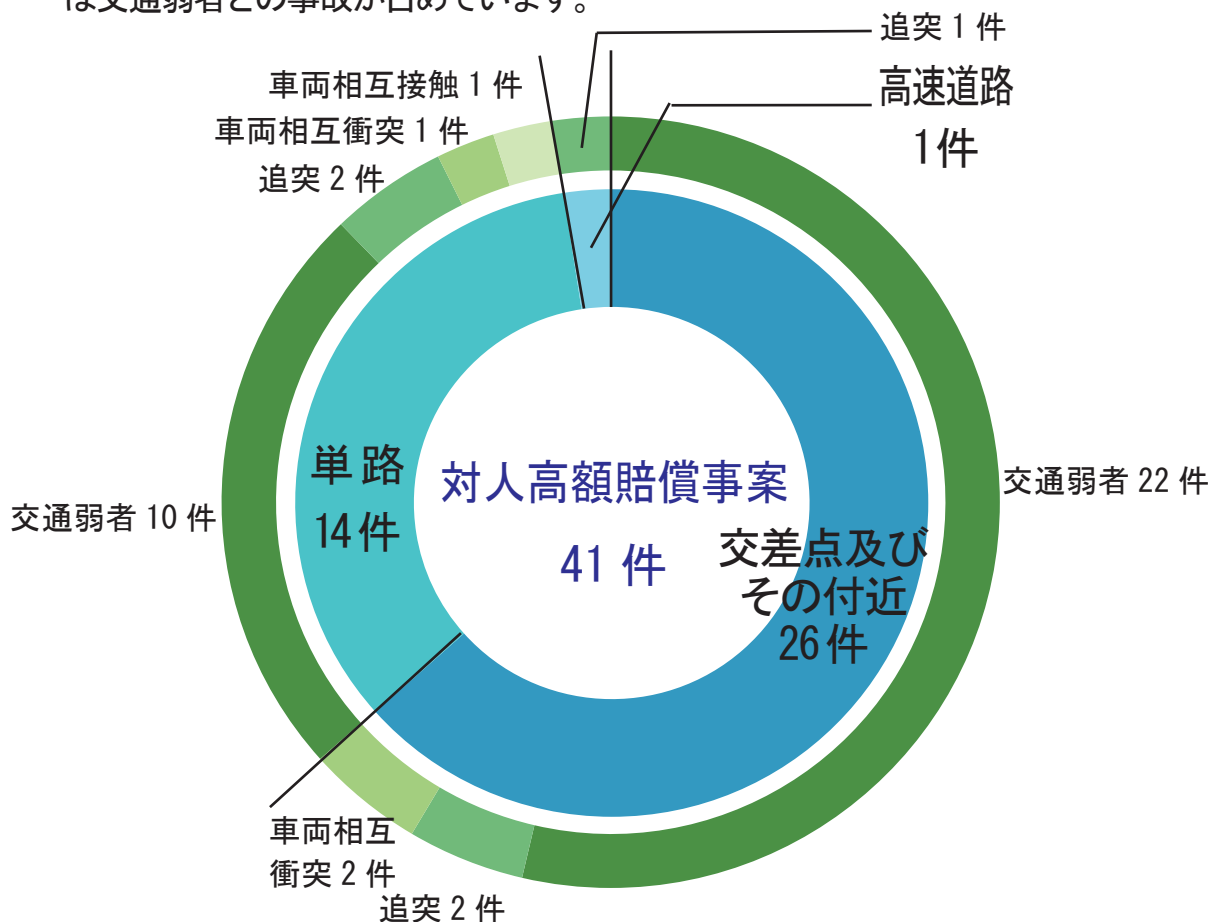
① 高額賠償事案（1,000万円以上）の事故発生状況

過去5年間における高額賠償事案は41件で、被害者人数42人となりました。



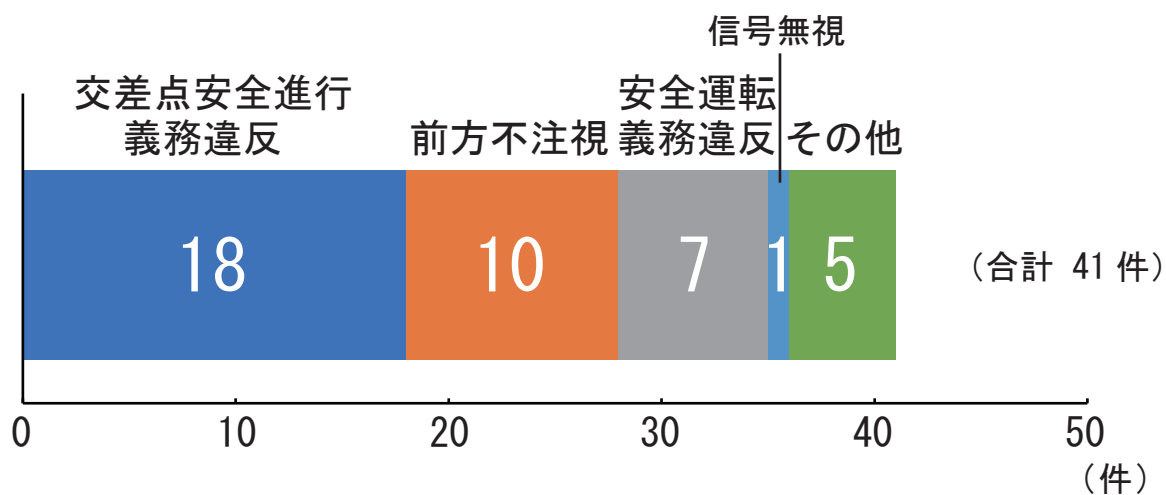
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、交差点及びその付近で26件、単路で14件発生しており、その多くは交通弱者との事故が占めています。



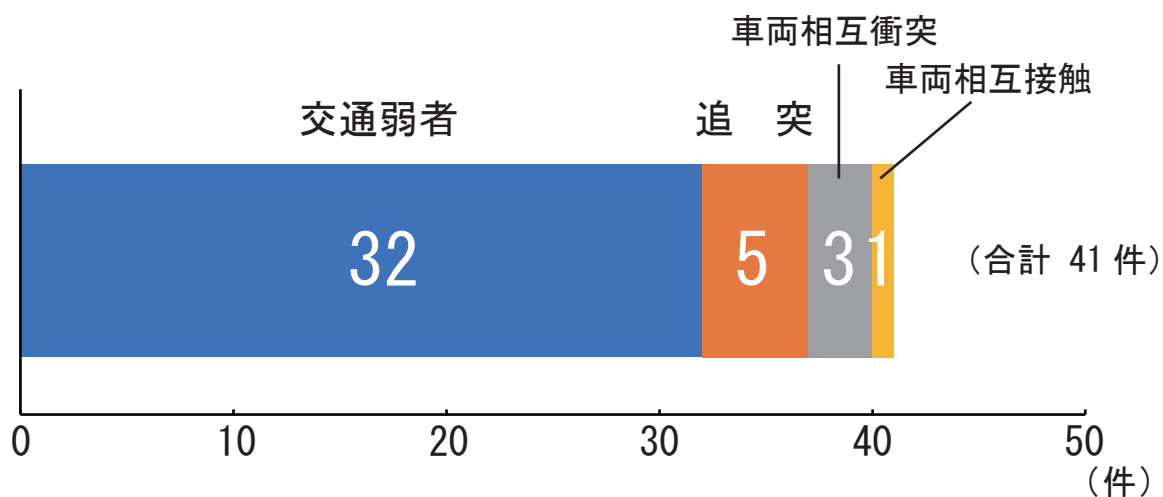
③ 原因別の事故発生状況

原因別では、交差点及びその付近での交差点安全進行義務違反（左折巻き込み等）による事故が全体の43.9%を占めています。



④ 類型別の事故発生状況

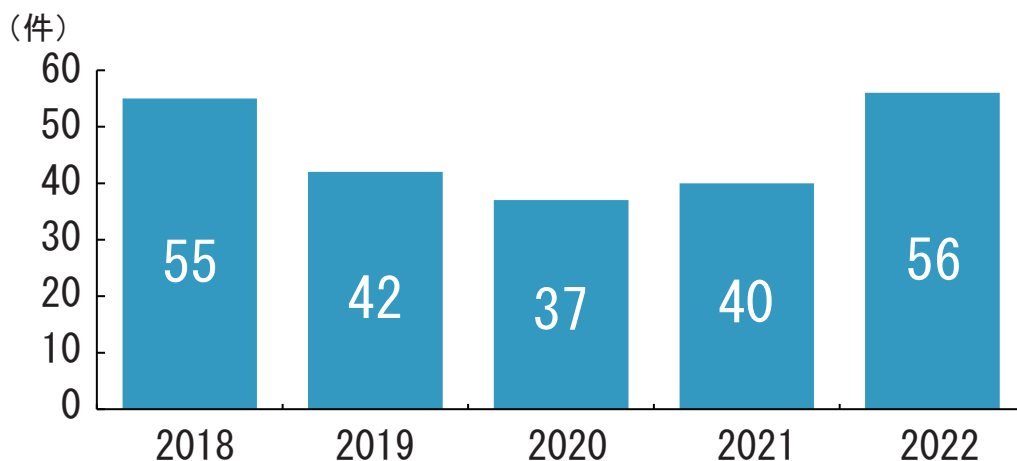
類型別では、交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）との事故が32件と最も多く、全体の78.0%を占めています。



(2) 対物共済

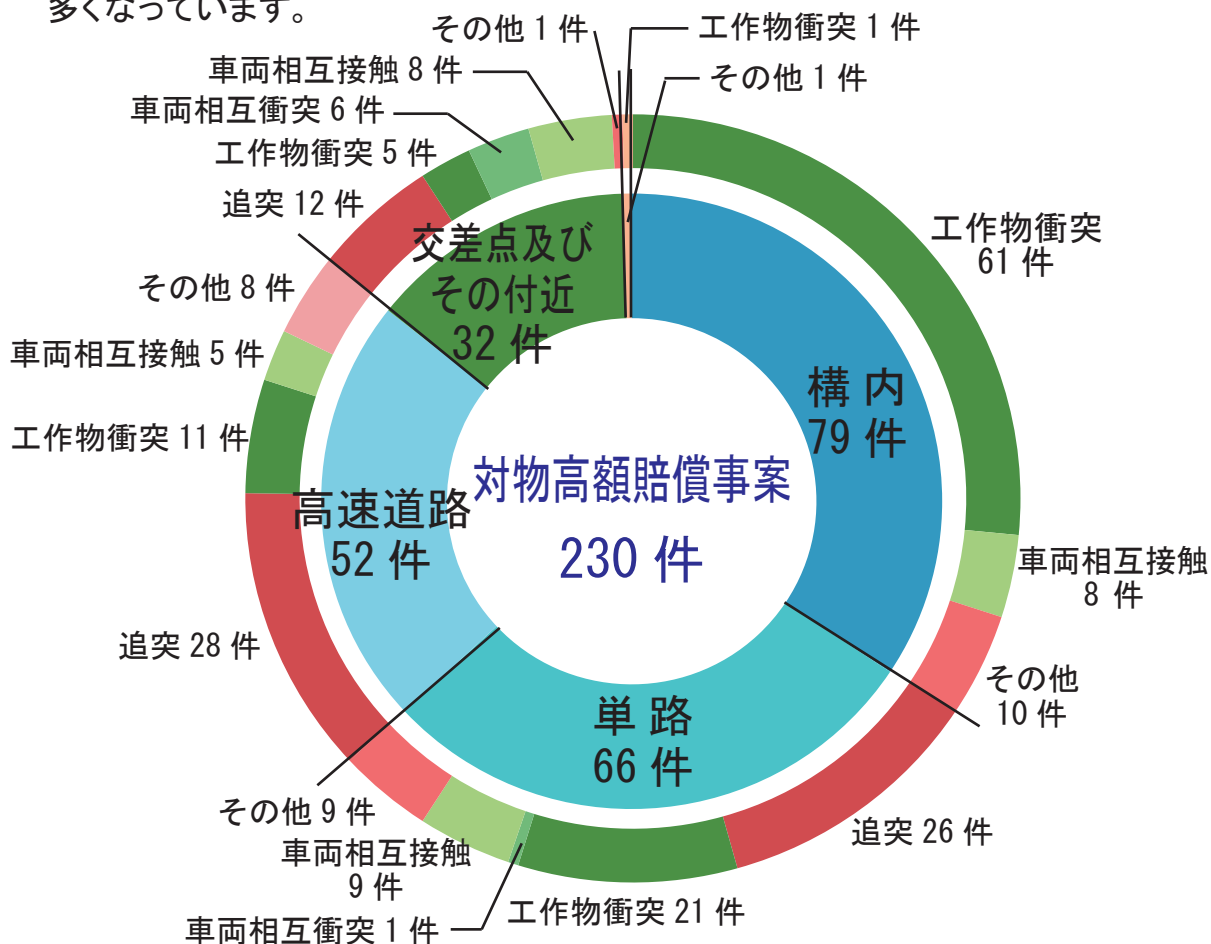
① 高額賠償事案（200万円以上）の事故発生状況

過去5年間における高額賠償事案は230件で、2022年度は56件発生し、過去5年間で最も多く、前年度より16件の増加となっています。



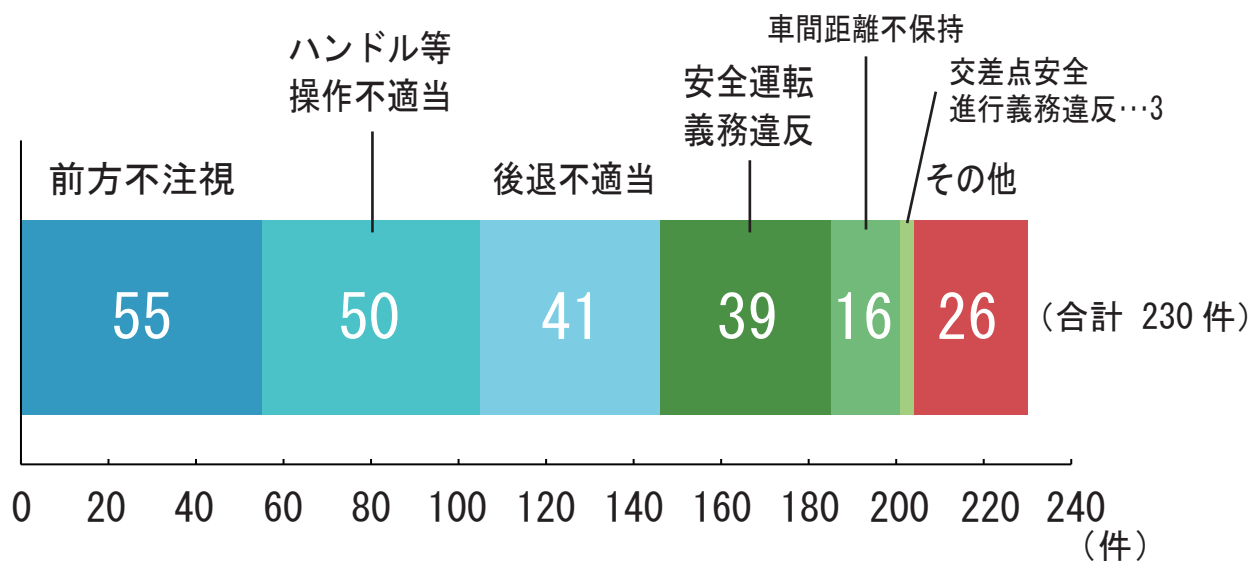
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、構内で発生した事故が79件と最も多く、そのうち工作物との衝突が61件と77.2%を占めています。また、単路、高速道路では追突事故の占める割合が多くなっています。



③ 原因別の事故発生状況

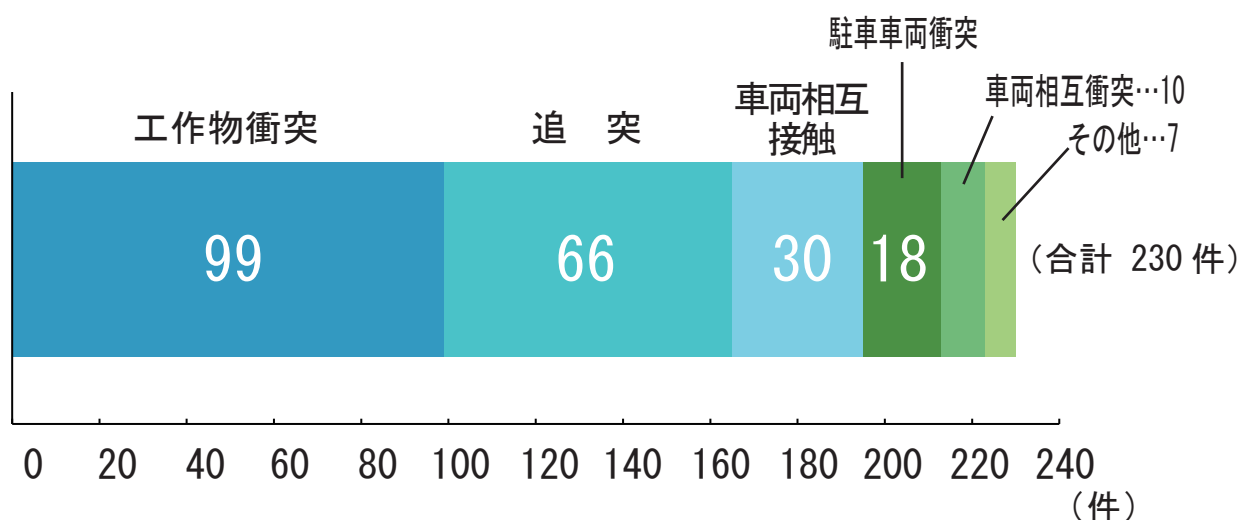
原因別では、前方不注視による事故が55件と最も多く、次いでハンドル等操作不適當、後退不適當が多く発生しています。



④ 類型別の事故発生状況

類型別では、工作物衝突が99件と最も多く、次いで追突が66件と多く発生しています。

近年では、工作物衝突事故が高額賠償事案となる傾向があります。



6. 過去5年間ににおける運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）

（1）運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況

道路形状別の事故では、構内での事故が50～59歳で1,057件と最も多く発生しており、構内事故全体の32.7%を占めています。

（件）

区 分 \ 年 齢	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不 明	合 計
交差点及びその付近	11	175	180	595	660	221	240		2,082
単 路	14	227	271	701	874	291	363	10	2,751
高速道路	2	92	96	239	259	91	72	2	853
構 内	8	171	332	830	1,057	359	449	25	3,231
そ の 他		1	1	9	7	2	2	1	23
合 計	35	666	880	2,374	2,857	964	1,126	38	8,940

（2）運転者年齢層別の類型別事故発生状況

類型別の事故では、工作物衝突が40～59歳で1,612件と最も多く発生しており、工作物衝突全体の58.8%を占めています。

（件）

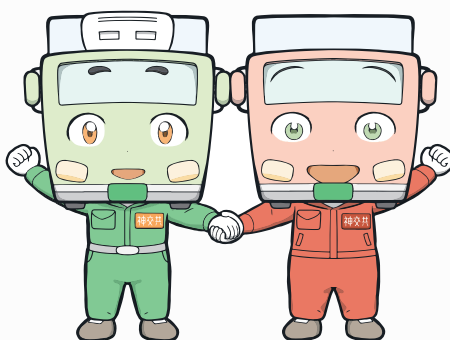
事故類型 \ 年 齢	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不 明	合 計
車両相互	追 突	6	138	129	341	363	130	157	1,264
	逆 突	1	21	34	94	100	42	53	345
	接 触	7	148	174	544	607	218	227	1,929
	その他衝突	5	60	88	253	308	93	76	894
車両単独	駐車車両衝突	5	71	100	233	333	111	177	1,034
	工作物衝突	9	172	288	703	909	292	358	2,740
	その他		9	18	52	47	9	19	163
歩行者・自転車・二輪車		2	47	49	154	190	69	59	571
合 計		35	666	880	2,374	2,857	964	1,126	8,940

(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況

時間帯別の事故では、10時から12時の時間帯で最も多く発生しています。なかでも、50～59歳が576件と多く、10時～12時の時間帯で32.3%を占めています。

(件)

年 齢 時間帯	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	不 明	合 計
0～2		5	7	41	41	20	14	4	132
2～4		11	13	55	64	18	13	2	176
4～6		30	34	125	130	40	49	3	411
6～8	8	71	99	269	349	94	125	6	1,021
8～10	6	139	172	485	557	180	225	2	1,766
10～12	5	126	213	436	576	196	225	8	1,785
12～14	5	92	109	321	392	148	183	5	1,255
14～16	7	86	98	268	314	122	151	2	1,048
16～18	3	57	70	169	223	63	83	3	671
18～20		29	30	97	102	39	30	2	329
20～22	1	10	22	59	65	27	18		202
22～24		10	13	49	44	17	10	1	144
合 計	35	666	880	2,374	2,857	964	1,126	38	8,940





高齢運転者への事故防止のワンポイントアドバイス

一般的に、加齢による身体機能の低下に伴って、周囲への注意不足による認知の遅れ、予測不適による判断の誤り、ハンドルやブレーキ操作の誤りなどが事故に繋がる恐れがあります。

65歳以上を対象とした適齢診断の受診結果をもとに、社内での安全運転指導をお願いいたします。

1. 「注意力」「集中力」の維持

運転中にセンターラインを踏んだら要注意。「注意力」「集中力」が低下している可能性があります。悪化すれば、対向車との衝突事故を起こす可能性があるので、再度、「注意力」「集中力」への意識を高め安全運転に努めましょう。

2. 過信せず安全確認をしっかりと

慣れた道でも過信せず、慎重な運転を心掛け、「ここは大丈夫だろう」から「ここは危ないかもしれない」といった意識を持って、常に安全確認を忘れないようにしましょう。

3. 速度制限・速度の維持

無意識のうちにスピードが出過ぎていた場合は要注意。「集中力」あるいは「感情を抑制する力」が低下している可能性があります。メーターを確認するなど、速度管理の意識を常に持ちましょう。

4. 健康管理の徹底

自らの健康状態を正しく認識し、疲労を蓄積しないよう心掛けるとともに、プロ意識をもって日々安全な運行が行えるよう自己管理を行ってください。

5. コメンタリー運転の実践

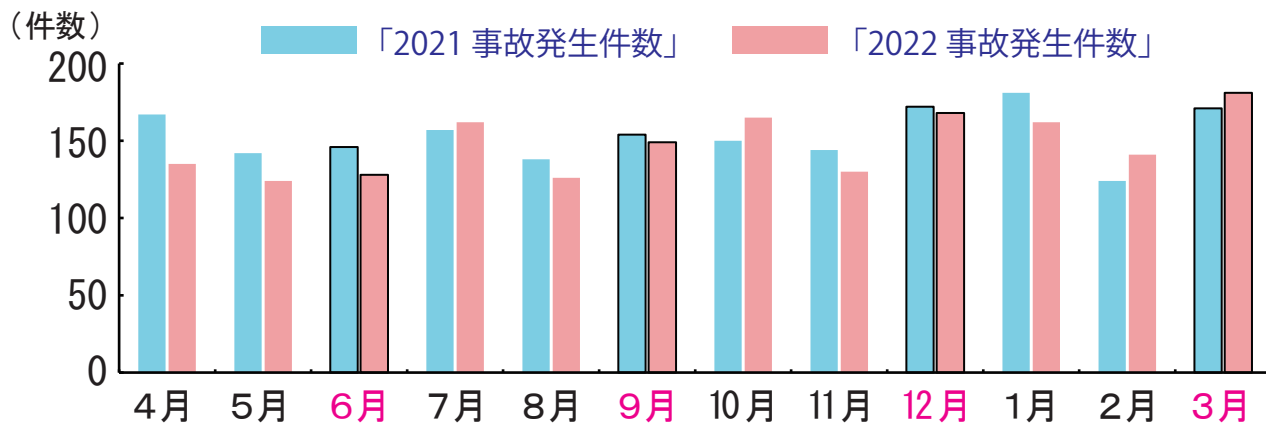
加齢に伴い、動体視力や聴力の低下、集中力の持続の低下等により、危険の発見が遅れがちになります。目に見える危険や隠れている危険を積極的に見つけ出す意識を常に持ち、コメンタリー運転を実践し、「見落とし」を防止しましょう。

7. 2022年度交通事故防止強化月の事故発生状況

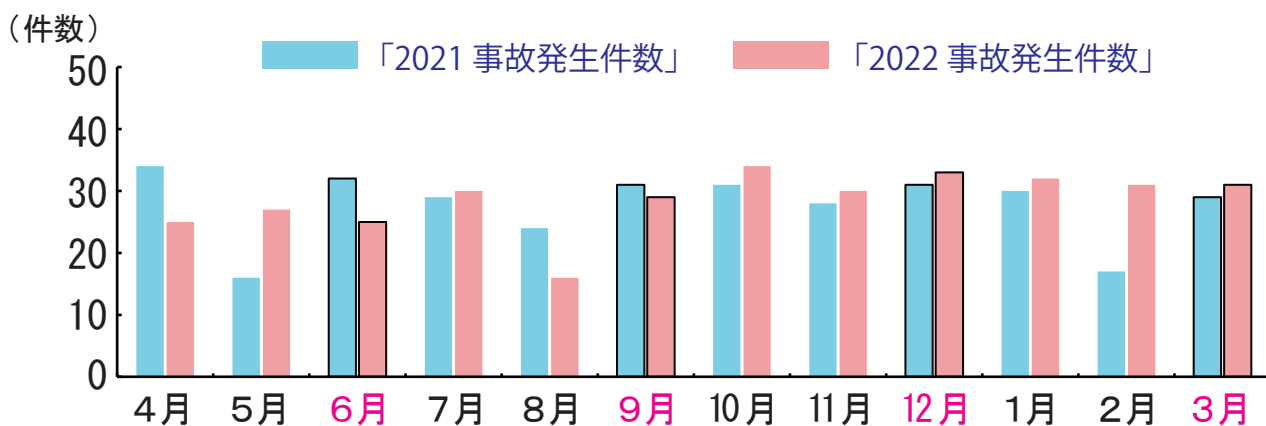
2022年度においても6月、9月、12月、3月の4か月を交通事故防止強化月に設定し、安全情報の配信などに取り組み、事故防止の喚起に努めました。

(1) 月別事故発生件数

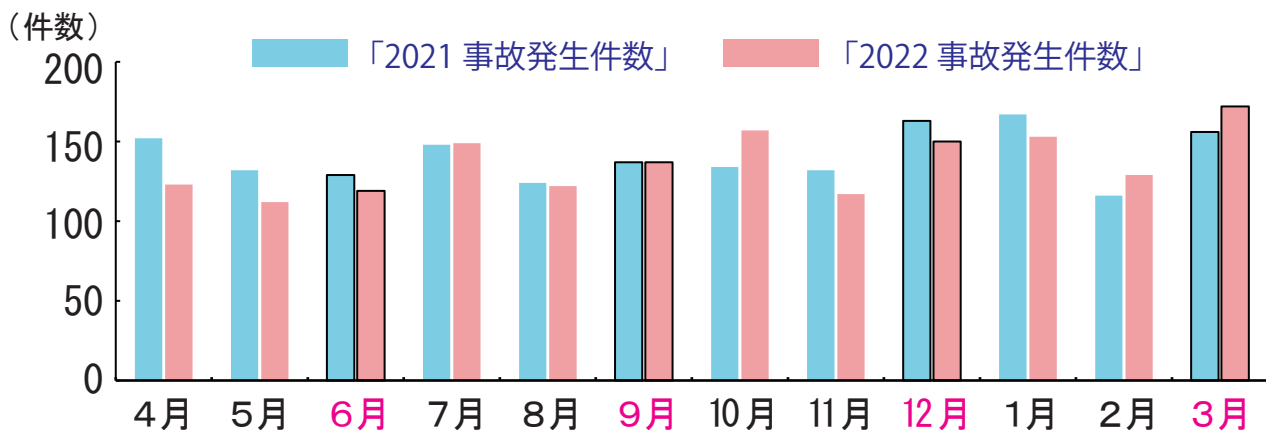
① 全事故



② 対人共済



③ 対物共済



8. 2022年度交通事故防止強化月の結果について

(1) 重点項目別事故発生件数

交通事故防止重点項目「交差点事故の根絶」「追突事故の根絶」「構内事故の根絶」を掲げましたが、構内の事故発生件数は、すべての強化月で月平均（強化月を除く）よりも多い結果となりました。

(件)

重点項目	区 分	6 月	9 月	12 月	3 月	月平均 (強化月除く)
交差点事故の根絶		28	30	33	34	30.3
追突事故の根絶		11	20	28	19	21.5
構内事故の根絶		54	52	69	66	51.4

(2) 交通事故防止強化月ポスターの作成

強化月のより一層の事故減少に取り組むため強化月ポスターを作成し、組合員に配付しました。



9. 交協連傘下15組合の2022年度事故発生状況

交協連（全国トラック交通共済協同組合連合会）は、全国15のトラック交通共済協同組合を会員とする団体です。

(1) 事故発生状況（対人・対物事故）

区 分		神奈川 (件)	15組合合計 (件)	15組合平均 (件)	神奈川の割合 (%)
共済種目別					
対人	発生件数（件）	343	4,775	318	7.2
	死者数（人）	1	69	4.6	1.5
	傷者数（人）	442	6,095	406	7.3
	100両当りの事故件数	2.06	—	1.54	0.52（平均との差）
対物	発生件数（件）	1,640	27,278	1,819	6.0
	100両当りの事故件数	11.84	—	9.59	2.25（平均との差）

(2) 原因別事故発生状況（対人事故）

区 分	神奈川 (件)	神奈川の構成比 (%)	15組合合計 (件)	15組合の構成比 (%)
事故原因別				
前方不注視	124	36.1	2,016	42.2
車間距離不保持	20	5.8	333	7.0
後退不適當	19	5.5	229	4.8
ハンドル等操作不適當	86	25.1	641	13.4
徐行違反			2	0.04
左折違反	3	0.9	163	3.5
右折違反	1	0.3	132	2.8
一時停止違反	1	0.3	29	0.6
最高速度違反			1	0.02
優先通行違反			9	0.2
追い越し違反			44	0.9
横断（転回）違反			11	0.2
信号無視			91	1.9
酒酔い・酒気帯び			2	0.02
安全運転義務違反（安全速度）			9	0.2
安全運転義務違反（その他）	24	7.0	691	14.5
交差点安全進行義務違反	41	12.0	250	5.2
不明・その他の違反	24	7.0	122	2.6
合 計	343	100	4,775	100

(3) 類型別事故発生状況 (対人事故)

区 分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
類型別		(件)	(%)	(件)	(%)
車 両	追突 (走行中)	22	6.4	382	8.0
	追突 (停止中)	147	42.8	1,719	36.0
	正面衝突	1	0.3	56	1.2
	側面衝突	4	1.2	286	6.0
	接 触	59	17.2	1,224	25.6
	その他	40	11.7	292	6.1
	小 計	273	79.6	3,959	82.9
	(うち 自動二輪・原付)	28	8.2	325	6.8
歩行者		20	5.8	226	4.7
自転車		40	11.7	478	10.0
単独 (その他)		10	2.9	108	2.3
列 車				4	0.1
合 計		343	100	4,775	100

(4) 運転者年齢層別事故発生状況 (対人事故)

区 分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
年 齢		(件)	(%)	(件)	(%)
20 歳未満		3	0.9	30	0.6
20 ~ 24 歳		9	2.6	181	3.8
25 ~ 29 歳		11	3.2	237	5.0
30 ~ 34 歳		16	4.7	226	4.7
35 ~ 39 歳		18	5.2	266	5.6
40 ~ 44 歳		42	12.2	361	7.6
45 ~ 49 歳		52	15.2	583	12.2
50 ~ 54 歳		70	20.4	807	16.9
55 ~ 59 歳		52	15.2	729	15.3
60 ~ 64 歳		34	9.9	550	11.5
65 ~ 69 歳		19	5.5	293	6.1
70 歳以上		17	5.0	512	10.7
合 計		343	100	4,775	100

(引用: 令和4年度 交通共済統計年報データ)



よく見る！

1. 前を よく見る！

2. 交通弱者の 動静に注意！

3. 構内は 気を抜かない！

神奈川県自動車交通共済協同組合
〒222-8582

横浜市港北区新横浜二丁目 13 番地 4

TEL. 045-475-2134 FAX. 045-475-2144

HP : <https://shinkokyo.or.jp>

2023 年 9 月 30 日発行